

西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 6 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地が拡大しているのが確認されました。

3 日に火口周辺警報（火口周辺危険）から火口周辺警報（入山危険）に引き上げました。また、11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替え、警戒が必要な範囲を西之島の中心から概ね 6 km 以内と明示しました。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

○ 活動概況

< 6 月 11 日の状況（図 3～4）>

11 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、北側火口（図 3 の ）の東側に、青白色の噴煙を噴出する新たな噴火口（図 3 の ）が認められ、溶岩が南東方向へ流出していました（図 3 の ）。5 月 21 日に確認された新たな火口（図 3 の ）及び北側火口からは、連続的な灰白色の噴煙の噴出を確認しました（図 3 の ）。

西之島の海岸線付近に褐色の変色水の分布が確認されました（図 4 の矢印）。

< 6 月 13 日の状況（図 5～6）>

13 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、4 ヶ所の火口が確認されました。北側火口（図 5 の ）からは短い間隔で褐色を帯びた白色噴煙が噴出していました。5 月 21 日に確認された火口（図 5 の ）からは青白色の噴煙を連続的に噴出し、短い間隔で溶岩片を火口縁から約 50～100 m の高さに放出していました。6 月 11 日に確認された火口（図 5 の ）からは青白色の噴煙を連続的に噴出し、火口内は溶岩湖となっていました。溶岩流は、この火口付近から南東方向に扇状に広がっていました。これら 3 つの火口では短い間隔で激しく溶岩片を吹き上げるストロンボリ式噴火を確認しました。南側火口（図 5 の ）では活動は認められませんでした。

新たに形成された陸地（西之島と接続した新島部分）の東岸と西岸では、海面に接した場所で白煙を上げていました。新たに形成された陸地の東岸から西岸にかけて緑色の変色水が幅約 200～400m で分布していました（図 6 ）。

上記の他に海上自衛隊の観測により、噴火及び溶岩流の流出が確認され、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 7 月分）は平成 26 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁、海上自衛隊及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

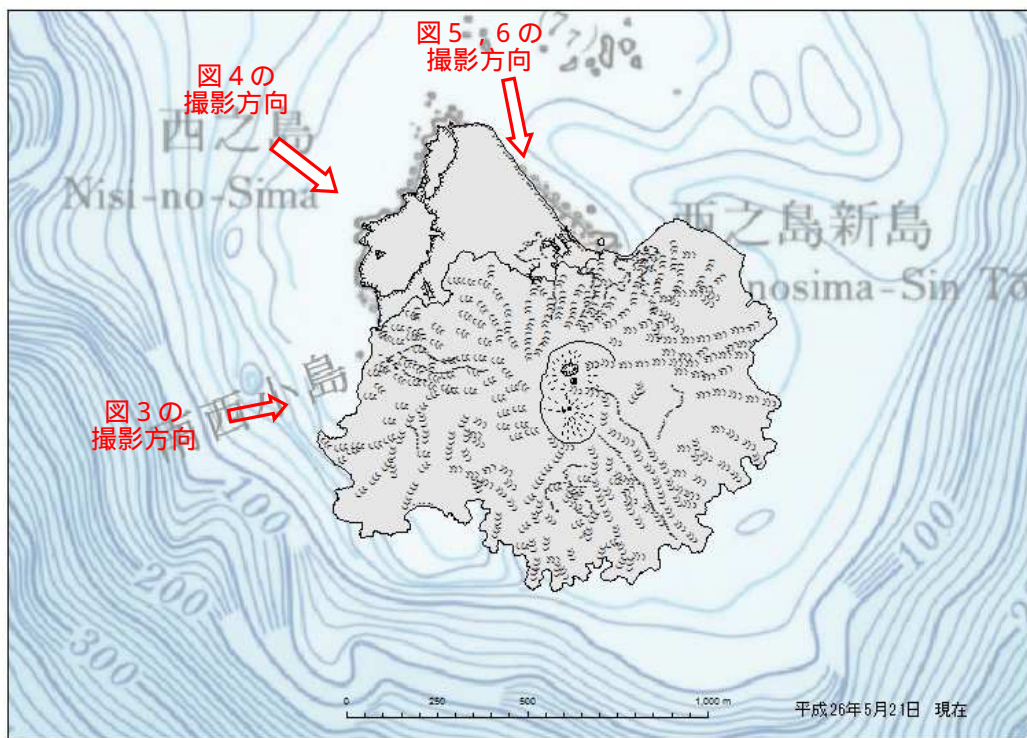


図2 西之島 主な撮影方向

西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



- 図3 西之島 火口付近の状況（6月11日11時06分西方向から撮影・海上自衛隊提供）
- ・北側火口（ ）東側に新たな噴火口（ ）が確認され、新たな噴火口から溶岩流が南東方向へ流出しているのが確認されました。
 - ・北側火口及び5月21日に確認された火口（ ）から灰白色の噴煙が確認されました（ ）。



- 図4 西之島 変色水の状況（6月11日11時13分北西方向から撮影・海上自衛隊提供）
- ・海岸線付近に褐色の変色水の分布が確認されました（黄色矢印）



図5 西之島 火口付近の状況（6月13日11時08分北方向から撮影・海上保安庁提供）

- ・北側火口（ ） 5月21日に確認された火口（ ）と6月11日に確認された火口（ ）では激しく溶岩片を吹き上げるストロンボリ式噴火が確認されました。南側火口（ ）では活動が認められませんでした。



図6 西之島 噴火及び変色水の状況（6月13日11時08分北方向から撮影・海上保安庁提供）

- ・新たな陸地の東岸（ ）と西岸（ ）に白煙を上げているのが確認されました
- ・海岸付近一帯に約200～400mの緑色の変色水（ ）が確認されました。